

瀬戸内海環境保全特別措置法に 基づく事前評価に関する書面

令和 8 年 6 月 11 日

申請者の住所及び氏名（法人にあっては所在地、名称、代表者名）

東京都目黒区上目黒1-13-14 REVE中目黒ビルB1階
サフィールホテルズ 株式会社
代表取締役 長田 晋

TEL : (03) 5725 - 1686

工場又は事業場の所在地及び名称

起雲
大分県由布市湯布院町大字川上字三丁塚2695-1 他二筆

申 請 の 概 要 (1 / 2)

1. 申請の目的

サフィールホテルズ株式会社は、大分県由布市湯布院町において、新築ホテルの建設を計画している。

本計画に伴い、特定施設に該当するちゅう房施設、洗たく施設及び入浴施設を設置することから、瀬戸内海環境保全特別措置法第5条第1項の規定により、特定施設設置許可申請を行うものである。

2. 特定施設の種別及び数

66の3 旅館業

イ ちゅう房施設	1 基
ロ 洗たく施設	1 基
ハ 入浴施設	30 基

(客室露天風呂 21, 客室ユニットバス 2, 客室水風呂 2, スパエリア 5)

3. 汚水処理施設

(1) 処理方式：凝集剤添加型膜分離活性汚泥方式 (N仕様)

(2) 計画処理人員：210人×1基

(3) 計画汚水量：日最大汚水量 94.0 m³/日

(浄化槽排水：42.0 m³/日, 温泉排水：52.0 m³/日)

日平均汚水量 57.2 m³/日

(浄化槽排水：34.0 m³/日, 温泉排水：23.2 m³/日)

4. 当該申請に係わる排水の汚濁負荷量等について

【 設置後の汚濁負荷量 】

排水口	区分 項目	排水量・水質		設置後の負荷量(kg/日)
		通常	最大	
全排水	排水量 (m ³ /日)	57.2	94.0	
	pH	5.8~8.6	5.8~8.6	
	BOD (mg/L)	10.0	15.5	0.94
	COD (mg/L)	23.9	30.0	2.25
	SS (mg/L)	21.9	24.5	2.06
	大腸菌数 (CFU/mL)	380	490	
	T-N (mg/L)	10.0	12.8	0.94
	T-P (mg/L)	1.4	1.8	0.13

※負荷量は最大排水量と通常水質から算出した。
 ※水質は排水口No.1~2の加重平均値

申 請 の 概 要 (2 / 2)

【 排水口 No. 1 における排出水の状態 (温泉排水) 】

排水口	区分		排水量・水質		設置後の負荷量(kg/日)
	項目		通常	最大	
排水口 No.1	排水量 (m ³ /日)		23.2	52.0	
	pH		5.8~8.6	5.8~8.6	
	BOD (mg/L)		10.0	20.0	0.52
	COD (mg/L)		15.0	30.0	0.78
	SS (mg/L)		10.0	20.0	0.52
	大腸菌数 (CFU/mL)		800以下	800	
	T-N (mg/L)		10.0	15.0	0.52
	T-P (mg/L)		2.0	2.5	0.10

※負荷量は最大排水量と通常水質から算出した。

【 排水口 No. 2 における排出水の状態 (浄化槽排水) 】

排水口	区分		排水量・水質		設置後の負荷量(kg/日)
	項目		通常	最大	
排水口 No.2	排水量 (m ³ /日)		34.0	42.0	
	pH		5.8~8.6	5.8~8.6	
	BOD (mg/L)		10.0	10.0	0.42
	COD (mg/L)		30.0	30.0	1.26
	SS (mg/L)		30.0	30.0	1.26
	大腸菌数 (CFU/mL)		100	100	
	T-N (mg/L)		10.0	10.0	0.42
	T-P (mg/L)		1.0	1.0	0.04

※負荷量は最大排水量と通常水質から算出した。

(注) 申請の目的及び特定施設、污水处理施設等に関する申請の概要について記入するとともに、排水量及び負荷量の増減については、概要を記入し、なるべく排水口ごとに表にまとめること。

特 定 事 業 所 の 概 要					
資本金	1,000万円	従業員	30人	業種	宿泊業 旅館・ホテル (日本標準産業分類番号: 7511)
主要生産品目及び月生産量	宿泊定員 : 42人				
主要原材料の品目、用途及び使用量	<ul style="list-style-type: none"> ・米 : 6.0 kg/日 朝食・夕食提供用 ・野菜 : 16.0 kg/日 朝食・夕食提供用 ・その他 : 6.4 kg/日 朝食・夕食提供用 				
特定施設の種類の種類及び数	66の3 旅館業 イ ちゅう房施設 1基 ロ 洗たく施設 1基 ハ 入浴施設 30基				
作業工程					
排水処理の方法及びその系統図	<p><浄化槽設備></p> <p>排水処理方法：凝集剤添加型膜分離活性汚泥方式（N仕様）</p> <p>処 理 水：排水口 No. 2 から暗渠へ放流</p> <p style="text-align: center;">< 排水処理フロー ></p> <pre> graph TD Inflow[流入] --> Baffle[ばっ気型スクリーン] Baffle --> Pump[原水ポンプ槽] Pump --> Flow[流量調整槽] Flow --> Screen[微細目スクリーン] Screen --> Denit[脱窒槽] Denit --> Nit[硝化槽] Nit --> Mem[膜処理水槽] Mem --> Disin[消毒槽兼放流ポンプ槽] Disin --> Discharge[放流] Flow -- 脱離液 --> Sludge[し渣汚泥貯留槽] Screen -- スクリーン残渣 --> Sludge Nit -- 余剰汚泥 --> Sludge Sludge -- 搬出 --> Removal[搬出] Nit -- 凝集剤 --> Nit Nit -- 循環 --> Denit </pre>				
担当者	株式会社計画技術研究所 村田 靖彦 TEL 03-5117-2668				

(注) 申請前と申請後で上記が異なるものについては、申請前及び申請後に分けて記入すること。

1 許可申請の概要

(1) 特定施設設置の理由及び内容

サフィールホテルズ株式会社は、大分県由布市湯布院町において、新築ホテルの建設を計画している。

本計画に伴い、特定施設に該当するちゅう房施設、洗たく施設及び入浴施設を設置することから、瀬戸内海環境保全特別措置法第5条第1項の規定により、特定施設設置許可申請を行うものである。

2 工場又は事業場からの排水経路並びに工場又は事業場の排水口の位置及び数

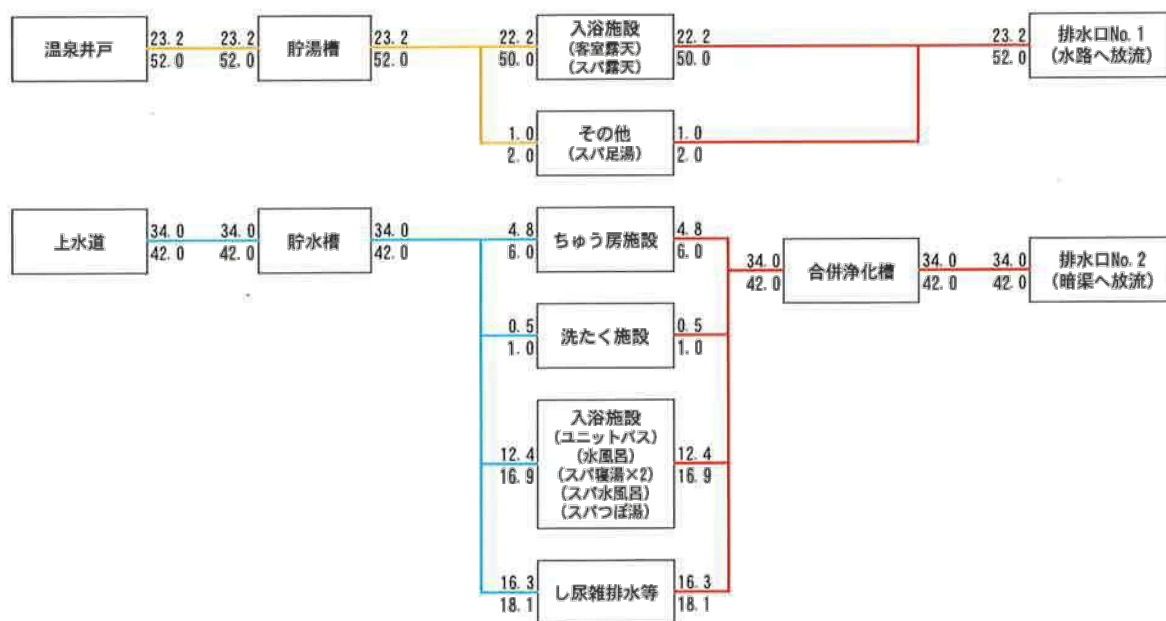
(1) 排水経路並びに排水口の位置及び数

排水経路：「別図-2」のとおり

排水口の位置：「別図-2」のとおり

排水口の数： 2

(2) 排水系統及び排水経路の略図



通常の数
最大の数

3 工場・事業場の各排水口における排出水の汚染状態の通常値及び最大の値、当該排出水の1日当りの通常値及び最大の値並びに当該排出水の汚濁負荷量

< 排水口No. 1 >

排水口 項目	区分	設置後				負荷量・水量の増減	
		水量・水質		負荷量		通常	最大
		通常	最大	通常	最大		
排水口 No.1	排水量 (m ³ /日)	23.2	52.0			+23.2	+52.0
	pH	5.8~8.6	5.8~8.6				
	BOD (mg/L)	10	20	0.23	0.52	+0.23	+0.52
	COD (mg/L)	15	30	0.35	0.78	+0.35	+0.78
	SS (mg/L)	10	20	0.23	0.52	+0.23	+0.52
	大腸菌数 (CFU/mL)	800以下	800				
	T-N (mg/L)	10	15	0.23	0.52	+0.23	+0.52
	T-P (mg/L)	2.0	2.5	0.05	0.10	+0.05	+0.10

< 排水口No. 2 >

排水口 項目	区分	設置後				負荷量・水量の増減	
		水量・水質		負荷量		通常	最大
		通常	最大	通常	最大		
排水口 No.2	排水量 (m ³ /日)	34.0	42.0			+34.0	+42.0
	pH	5.8~8.6	5.8~8.6				
	BOD (mg/L)	10	10	0.34	0.42	+0.34	+0.42
	COD (mg/L)	30	30	1.02	1.26	+1.02	+1.26
	SS (mg/L)	30	30	1.02	1.26	+1.02	+1.26
	大腸菌数 (CFU/mL)	100	100				
	T-N (mg/L)	10	10	0.34	0.42	+0.34	+0.42
	T-P (mg/L)	1.0	1.0	0.03	0.04	+0.03	+0.04

※ 最大負荷量(kg/日)=最大排水量(m³/日)×通常水質(mg/L)×10⁻³
 通常負荷量(kg/日)=通常排水量(m³/日)×通常水質(mg/L)×10⁻³

< 全排水水（水質は排水口No. 1～2の加重平均値） >

排水口	区分 項目	設置後				負荷量・水量の増減	
		水量・水質		負荷量		通常	最大
		通常	最大	通常	最大		
全排水水	排水量 (m ³ /日)	57.2	94.0			+57.2	+94.0
	pH	5.8～8.6	5.8～8.6				
	BOD (mg/L)	10.0	15.5	0.57	0.94	+0.57	+0.94
	COD (mg/L)	23.9	30.0	1.37	2.25	+1.37	+2.25
	SS (mg/L)	21.9	24.5	1.25	2.06	+1.25	+2.06
	大腸菌数 (CFU/mL)	380	490				
	T-N (mg/L)	10.0	12.8	0.57	0.94	+0.57	+0.94
	T-P (mg/L)	1.4	1.8	0.08	0.13	+0.08	+0.13

※ 最大負荷量(kg/日)=最大排水量(m³/日)×通常水質(mg/L)×10⁻³
 通常負荷量(kg/日)=通常排水量(m³/日)×通常水質(mg/L)×10⁻³

4 工場又は事業場の排水口の周辺の公共用水域について定められている水質汚濁に係る環境基準その他水質汚濁に係る環境保全上の目標に関する事項

(1) 人の健康の保護に関する環境基準

項目	基準値	項目	基準値
カドミウム	0.003mg/L以下	1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下
全シアン	検出されないこと	トリクロロエチレン	0.01mg/L以下
鉛	0.01mg/L以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下
六価クロム	0.02mg/L以下	1,3-ジクロロペン	0.002mg/L以下
砒素	0.01mg/L以下	チウラム	0.006mg/L以下
総水銀	0.0005mg/L以下	シマジン	0.003mg/L以下
アルキル水銀	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02mg/L以下
PCB	検出されないこと	ベンゼン	0.01mg/L以下
ジクロロメタン	0.02mg/L以下	セレン	0.01mg/L以下
四塩化炭素	0.002mg/L以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	ふっ素	0.8mg/L以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L以下	ほう素	1mg/L以下
1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	1,4-ジオキサン	0.05mg/L以下
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L以下		

備考) 海域については、ふっ素及びほう素の基準は適用しない。

(2) 生活環境の保全に関する環境基準

排出先の河川、海域名		大分川水系 大分川
環境基準点		大分川 天神橋
環境基準類型		A
基準値	水素イオン濃度	6.5以上8.5以下
	生物化学的酸素要求量(mg/L)	2以下
	化学的酸素要求量(mg/L)	—
	浮遊物質(mg/L)	25以下
	溶存酸素量(mg/L)	7.5以上
	大腸菌数(CFU/100mL)	300以下
	n-ヘキサン抽出物質(油分等)(mg/L)	—
	全窒素(mg/L)	—
	全リン(mg/L)	—

(3) その他の水質汚濁に係る環境保全上の目標

① ダイオキシン類対策特別措置法に基づく環境基準

ダイオキシン類	1 pg-TEQ/L
---------	------------

② その他

5 周辺公共用水域の水質の現況及び排出水の排出に伴い予測される周辺公共用水域の水質の変化の程度

(1) 周辺公共用水域の水質の現況（河川域）

測定月日 令和8年5月7日 ～ 令和8年5月21日（2回）

測定分析機関名 タナベ環境工学株式会社

河川名	水路 (排水口直下流)		測定点名	St. 1							
水質の現況	月日	時刻	流量 (m ³ /日)	pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	T-N (mg/L)	T-P (mg/L)	D O (mg/L)
	令和8年 5月7日	9:26	527	7.6	12.3	9.6	5	5,800	6.56	1.44	3.9
		12:48	276	8.0	2.6	2.9	<1	660	1.63	0.396	5.6
		15:43	276	7.9	5.0	5.0	3	3,300	4.49	0.881	3.6
		平均	360		6.6	5.8	3	3,300	4.23	0.906	4.4
	令和8年 5月21日	9:48	708	8.0	2.8	4.7	2	970	2.75	0.434	4.7
		12:46	380	7.7	1.5	3.5	2	5,100	1.88	0.363	4.9
		15:40	484	7.7	2.1	4.9	3	30,000	4.04	0.686	4.8
		平均	524		2.1	4.4	2	12,000	2.89	0.494	4.8
	総平均	442	7.6~8.0	4.4	5.1	3	7,700	3.56	0.700	4.6	
	将来水質 (観測流量時)	—	—	5.4	8.4	6	—	4.69	0.823	—	
	将来水質 (低水流量時)	—	—	4.5	7.0	5	—	3.91	0.686	—	

河川名	大分川 (水路合流後)	測定点名	St. 2
-----	----------------	------	-------

水質の現況	月日	時刻	流量 (m ³ /日)	pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	SS (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)	T-N (mg/L)	T-P (mg/L)	D O (mg/L)
	令和8年 5月7日	9:20	33,100	7.6	1.4	1.4	4	4,000	1.03	0.169	7.7
		12:38	30,500	7.6	1.1	1.6	3	960	1.34	0.196	8.0
		15:34	28,800	7.6	1.4	1.8	4	7,000	1.23	0.201	7.8
		平均	30,800		1.3	1.6	4	4,000	1.20	0.189	7.8
	令和8年 5月21日	9:40	33,200	7.5	1.1	2.0	3	2,600	1.04	0.191	6.1
		12:38	36,600	7.5	1.5	2.3	4	1,500	1.03	0.172	6.7
		15:30	35,700	7.5	1.4	2.4	3	2,600	1.22	0.193	6.3
		平均	35,200		1.3	2.2	3	2,200	1.10	0.185	6.4
	総平均	33,000	7.5~7.6	1.3	1.9	4	3,100	1.15	0.187	7.1	
将来水質 (観測流量時)	—	—	1.3	2.0	4	—	1.18	0.190	—		
将来水質 (低水流量時)	—	—	1.0	1.6	3	—	0.95	0.154	—		

(2) その他当該水域に関する事項

特になし

(3) 予測の方法

① 汚濁負荷量の増加の有無 (有)

② 排出水の公共用水域での影響範囲
(河川域)

河川域における周辺公共用水域の範囲は、排水口直下の河川の低水流量が排水量の 100 倍未満の場合、排水口から河口までの間にある地点で低水流量が排水量の 100 倍以上となり、河川水と排水水とが十分に混合し一様な水質に達すると予想される地点までとされている。

低水流量換算については、国土交通省の流量観測地点である大分川本川の同尻における調査日の流量と直近 5 ヶ年の低水流量から低水流量換算のための比率を算出した。

同尻の流量比率により算出した大分川 St. 2 における低水流量は $41,000 \text{ m}^3/\text{日}$ であり、当該事業場からの最大排水量 ($94.0 \text{ m}^3/\text{日}$) の 100 倍である $9,400 \text{ m}^3/\text{日}$ を上回ることから、St. 2 までを周辺公共用水域での影響範囲とした。

当該事業場の排水口は 2 箇所あり、排水口 No. 1 (温泉排水) は水路へ、排水口 No. 2 (浄化槽排水) は暗渠へ放流され、それらが合流した後に、大分川へ流入する。(別図-2 参照)

調査地点は、水路 (排水口直下流) : St. 1、影響範囲とした大分川 (水路合流後) : St. 2 の 2 箇所とした。

なお、排水口 No. 1 (温泉排水) の放流先である水路は流水がないため、排水口 No. 2 (浄化槽排水) の放流先は暗渠のため調査不能だったことから、それらの合流後の水路 (大分川への合流部) を、調査地点 [水路 (排水口直下流) : St. 1] としている。

1) 流量測定結果

調査地点	測定年月日	全流量 ($\text{m}^3/\text{日}$)	平均流量 ($\text{m}^3/\text{日}$)
St. 1 水路 (排水口直下流)	令和8年5月7日	360	442
	令和8年5月21日	524	
St. 2 大分川 (水路合流後)	令和8年5月7日	30,800	33,000
	令和8年5月21日	35,200	

備考) 全流量は、測定日における平均流量

2) 流量計算結果

低水流量換算に用いた同尻の流量については、調査日の河川水位から、国土交通省より提供して頂いた令和6年確定「HQ式」を用いて算出した。

HQ式とは、1年間をとおして観測された流量と、その時点の河川水位との関係（これを水位流量曲線、あるいはH-Q曲線といい、通常は2次曲線（放物線）で表す。）を求め、これを用いて水位から、その水位に対応する流量を求める式である。

調査地点	測定年月日	全流量 ($\text{m}^3/\text{日}$)	平均流量 ($\text{m}^3/\text{日}$)
大分川 同尻	令和8年5月7日	1,210,000	885,000
	令和8年5月21日	559,000	

備考) 全流量は、測定日における水位から、国土交通省より提供して頂いた令和6年確定HQ式を用いて算出した流量の平均値

- ・ R8. 5. 7は、9時～16時まで閉局していたため、閉局前後の8時と17時の流量の平均値とした。
- ・ R8. 5. 21は、9時、12時、15時の流量の平均値とした。

3) 低水流量

各地点の低水流量は、大分川の同尻における〔低水流量／観測流量〕の比率より算出した。その結果は以下に示すとおりである。

調査地点	流量測定結果 (m ³ /日)	低水流量 (m ³ /日)
St.1 水路 (排水口直下流)	442	549
St.2 大分川 (水路合流後)	33,000	41,000
大分川 同尻	885,000	1,100,000

備考) 1,100,000 m³/日：大分川同尻における低水流量
(2020年～2024年の5ヵ年平均値)
国土交通省 「水文水質データベース」ウェブサイトより

4) 観測流量時濃度から低水流量時濃度への計算

調査地点	項目	観測流量 (m ³ /日)	観測流量時濃度 (mg/L)	低水流量 (m ³ /日)	低水流量時濃度 (mg/L)
St.1 水路 (排水口直下流)	BOD	442	4.4	549	3.5
	COD	442	5.1	549	4.1
	SS	442	3	549	2
	T-N	442	3.56	549	2.87
	T-P	442	0.700	549	0.564
St.2 大分川 (水路合流後)	BOD	33,000	1.3	41,000	1.0
	COD	33,000	1.9	41,000	1.5
	SS	33,000	4	41,000	3
	T-N	33,000	1.15	41,000	0.93
	T-P	33,000	0.187	41,000	0.151

$$\text{低水流量時濃度 (mg/L)} = \text{観測流量時濃度 (mg/L)} \times \frac{\text{観測流量 (m}^3\text{/日)}}{\text{低水流量 (m}^3\text{/日)}}$$

③-1 予測の手法(河川域)：観測流量時

$$S' = \frac{S \cdot Q + (S_0 \cdot Q_0 - S'_0 \cdot Q'_0)}{Q + (Q_0 - Q'_0)} \quad \text{から将来の水質を予測すると}$$

ただし、

S' : 測定点付近で排水と河川水が十分に混合したと仮定したときの将来水質 (mg/L)

S : 測定点付近の現況水質 (mg/L)

Q : 測定点付近の流量 (m³/日)

S_0 : 新規に増大する排水を含む当該特定事業場よりの全排水の水質の平均値 (mg/L)

Q_0 : 新規に増大する排水を含む当該特定事業場よりの全排水量 (m³/日)

S'_0 : 現状での当該特定事業場よりの全排水の水質の平均値 (mg/L)

Q'_0 : 現状での当該特定事業場よりの全排水量 (m³/日)

地点名 St.1 水路(排水口直下流)

$$S' \text{ (BOD)} = \frac{4.4 \times 442 + (10.0 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{442 + (94.0 - 0.0)} = 5.4$$

$$S' \text{ (COD)} = \frac{5.1 \times 442 + (23.9 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{442 + (94.0 - 0.0)} = 8.4$$

$$S' \text{ (S S)} = \frac{3 \times 442 + (21.9 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{442 + (94.0 - 0.0)} = 6$$

$$S' \text{ (T-N)} = \frac{3.56 \times 442 + (10.0 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{442 + (94.0 - 0.0)} = 4.69$$

$$S' \text{ (T-P)} = \frac{0.700 \times 442 + (1.4 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{442 + (94.0 - 0.0)} = 0.823$$

地点名 St.2 大分川(水路合流後)

$$S' \text{ (BOD)} = \frac{1.3 \times 33,000 + (10.0 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{33,000 + (94.0 - 0.0)} = 1.3$$

$$S' \text{ (COD)} = \frac{1.9 \times 33,000 + (23.9 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{33,000 + (94.0 - 0.0)} = 2.0$$

$$S' \text{ (S S)} = \frac{4 \times 33,000 + (21.9 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{33,000 + (94.0 - 0.0)} = 4$$

$$S' \text{ (T-N)} = \frac{1.15 \times 33,000 + (10.0 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{33,000 + (94.0 - 0.0)} = 1.18$$

$$S' \text{ (T-P)} = \frac{0.187 \times 33,000 + (1.4 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{33,000 + (94.0 - 0.0)} = 0.190$$

③-2 予測の手法 (河川域) : 低水流量時

$$S' = \frac{S \cdot Q + (S_0 \cdot Q_0 - S'_0 \cdot Q'_0)}{Q + (Q_0 - Q'_0)} \quad \text{から将来の水質を予測すると}$$

ただし、

S' : 測定点付近で排水と河川水が十分に混合したと仮定したときの将来水質 (mg/L)

S : 測定点付近の現況水質 (mg/L)

Q : 測定点付近の流量 (m³/日)

S_0 : 新規に増大する排水を含む当該特定事業場よりの全排水の水質の平均値 (mg/L)

Q_0 : 新規に増大する排水を含む当該特定事業場よりの全排水量 (m³/日)

S'_0 : 現状での当該特定事業場よりの全排水の水質の平均値 (mg/L)

Q'_0 : 現状での当該特定事業場よりの全排水量 (m³/日)

地点名 St.1 水路 (排水口直下流)

$$S' \text{ (BOD)} = \frac{3.5}{549} \times \frac{549}{94.0} + \frac{(10.0 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{94.0} = 4.5$$

$$S' \text{ (COD)} = \frac{4.1}{549} \times \frac{549}{94.0} + \frac{(23.9 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{94.0} = 7.0$$

$$S' \text{ (S S)} = \frac{2}{549} \times \frac{549}{94.0} + \frac{(21.9 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{94.0} = 5$$

$$S' \text{ (T-N)} = \frac{2.87}{549} \times \frac{549}{94.0} + \frac{(10.0 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{94.0} = 3.91$$

$$S' \text{ (T-P)} = \frac{0.564}{549} \times \frac{549}{94.0} + \frac{(1.4 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{94.0} = 0.686$$

地点名 St.2 大分川 (水路合流後)

$$S' \text{ (BOD)} = \frac{1.0}{41,000} \times \frac{41,000}{94.0} + \frac{(10.0 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{94.0} = 1.0$$

$$S' \text{ (COD)} = \frac{1.5}{41,000} \times \frac{41,000}{94.0} + \frac{(23.9 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{94.0} = 1.6$$

$$S' \text{ (S S)} = \frac{3}{41,000} \times \frac{41,000}{94.0} + \frac{(21.9 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{94.0} = 3$$

$$S' \text{ (T-N)} = \frac{0.93}{41,000} \times \frac{41,000}{94.0} + \frac{(10.0 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{94.0} = 0.95$$

$$S' \text{ (T-P)} = \frac{0.151}{41,000} \times \frac{41,000}{94.0} + \frac{(1.4 \times 94.0 - 0.0 \times 0.0)}{94.0} = 0.154$$

6 その他当該特定施設の設置等が環境に及ぼす影響についての事前評価に関し参考となるべき事項

(1) 将来予測を行った結果に基づく見解

今回申請を行う事業場からの排水が、周辺公共用水域へ及ぼす影響は将来予測の結果からみて軽微である。

(2) 分析方法

分析方法は、以下に示す分析方法に準じて行った。

【分析方法一覧表】

項目	分 析 方 法
p H	JIS K 0102-1 12
B O D	JIS K 0102-1 18 及び JIS K 0102-1 21.2
C O D	JIS K 0102-1 17.2
S S	昭和 46 年環境庁告示第 59 号付表 8
大腸菌数	JIS K 0102-5 5.6.2
T - N	JIS K 0102-2 17.5 及び JIS K 0170-3 6.3.4
T - P	JIS K 0102-2 18.4.6 及び JIS K 0170-4 7.3.5
D O	JIS K 0102-1 21.2

(3) 採水方法

採水方法は JIS K 0094 に準拠して行った。

(4) 流量観測方法

流量観測は、電磁流速計を使用し、「河川技術砂防基準 調査編」に準拠して行った。

(5) 調査地点

現地調査地点は、「別図-2」に示すとおりである。

(6) 採水時刻

採水時刻は、以下に示すとおりである。

【採水時刻一覧表】

採水年月日	令和 8 年 5 月 7 日	令和 8 年 5 月 21 日
採水回数		
1 回目	9 : 20 ~ 9 : 26	9 : 40 ~ 9 : 48
2 回目	12 : 38 ~ 12 : 48	12 : 38 ~ 12 : 46
3 回目	15 : 34 ~ 15 : 43	15 : 30 ~ 15 : 40



出典：国土地理院ウェブサイト

別図-1 申請場所



出典：ゼンリン住宅地図サービス

別図-2 調査地点図 (排水口の位置含む)